

## 全国の市区町村における健康日本21による歯の健康に関する 項目の現状把握と目標達成に関する調査結果

ヤマグチ 山口	メグミ 恵*	カヤバ 萱場	カズノリ 一則*	オジマ 尾島	トシユキ 俊之 <sup>2*</sup>
タカヒサ 高久	サトル 悟*	ニイムラ 新村	ヒロミ 洋未 <sup>3*</sup>	ヤナガワ 柳川	ヒロシ 洋 <sup>4*</sup>

**目的** 全国市区町村の健康日本21の地方計画における歯科保健事業のうち、現状把握、目標値の設定、目標値を設定している場合の達成見込みの現状、を明らかにする。

**方法** 2003年の全国調査で地方計画策定済みまたは予定と回答した市区町村1,446か所のうち、2006年3月31日までに合併が終了または予定でない953市区町村に対し、質問紙調査を実施した。調査項目は健康日本21の歯の健康に関する項目の現状把握、目標値設定状況、目標値の達成見込み、である。

**結果** 回答があった788市区町村（回答率82.7%）のうち、地方計画を策定済みの638市区町村について解析した。

現状把握が最も多くされていたのは、う歯のない3歳児の割合（93.5%）であった。最も少なかったのは、進行した歯周炎を有する人の割合（25.2%）であった。目標設定は、う歯のない3歳児の割合（63.7%）が最も多く、少なかったのは、学齢期の定期健診受診者の割合（6.8%）や進行した歯周炎を有する人の割合（16.3%）であった。目標値の達成困難が少なかったのは、う歯のない3歳児の割合（10.1%）で、多かったのは、歯間部清掃用具使用者の割合（30.1%）などであった。人口規模が大きいほど把握率や達成率が高い傾向がみられた。

**結論** 全国の自治体を対象に、歯科保健事業のうち、健康日本21の歯の健康に関する項目の現状把握、目標値の設定状況、目標値を設定している場合の達成見込みの現状調査を行った。う歯対策については把握や目標設定の割合が高い傾向を示したが、生活習慣病や嚥下性肺炎との関連を通じて高齢者の生活の質への影響が注目される歯周病対策に関して低い傾向がみられた。

**Key words** : 健康日本21, 全国調査, 歯の健康, う歯, 歯周病

\* 埼玉県立大学健康開発学科

<sup>2\*</sup> 浜松医科大学健康社会医学講座

<sup>3\*</sup> 埼玉県立大学看護学科

<sup>4\*</sup> 埼玉県立大学学長

連絡先：〒343-8540 越谷市三野宮820

埼玉県立大学健康開発学科 山口 恵